

2007年度 第2回 定例評議員会議事録

2007年11月5日
日本地質学会評議員会議長 新井田清信
副議長 保柳康一

日 時：2007年9月8日（土）
14：20～17：50
場 所：北海道大学 高等教育機能開発総合
センター E204室

出席者：木村 学会長 伊藤谷生副会長 佃
栄吉副会長
（評議員23名）＜留任＞ 安藤寿男 石垣
忍 石渡 明 井龍康文、小山内康人
新井田清信 針金由美子 松岡 篤 松田博
貴 丸山茂徳 渡辺真人

＜新任＞ 阿部国広 磯崎行雄 ト部厚志
永広昌之 大友幸子 川端清司 北里 洋
柴 正博 新妻信明 保柳康一 堀 利栄
山根 誠

（理事9名）渡部芳夫 天野一男 上砂正一
Simon Wallis 公文富士夫 中山俊雄 久
田健一郎

藤本光一郎 宮下純夫

（事務局）橋辺菊恵

欠席者 評議員（委任状16名）：会田信行
浅野俊雄 足立勝治 荒戸裕之 井内美郎
岡 孝雄 加藤 進 紺谷吉弘 酒井治孝

沢田順弘 徐 垣 高木秀雄 中川光弘
松本俊幸 三宅康幸 脇田浩二

欠席者 評議員（委任状なし 1名）：山路
敦

理事（4名）：狩野謙一 倉本真一 斎藤
眞 向山 栄 矢島道子

＊成立員数（21/40）に対し、出席23名、委
任状 16名で、評議員会は成立。

＊はじめに、川端清司、ト部厚志両評議員を
書記に選出。

報告事項

I 理事会報告

1 運営財政部会

1) 総務委員会

庶務関係（担当理事-上砂）

・計測自動制御学会「第33回リモートセン
シングシンポジウム」の協賛を承諾

・産総研「第8回地質調査情報センターシ
ンポジウム」の後援を承諾

・地震学会・火山学会共催「第8回地震火
山子供サマースクール」の協賛承諾

・朝日新聞社「第5回ジャパン・サイエン
ス&エンジニアリング・チャレンジ2007
（JSE2007）」

後援を承諾

JABEE委員会（委員長-天野）

・10/13予定の審査員の講習会（早稲田大
学）参加者の募集を行っている。学会よ
り旅費の補助を予定している。

地球惑星科学連合（木村会長）

・法人化を進める中で、46団体の今後の連
合のあり方など、将来構想委員会を立ち
上げて検討している。連合でもメルマガ
を発行予定。

会員関係（担当理事 中山）

前回から今回までの入退会ほか

①入会

1) 正会員（20）：吉川武憲 清水連太郎
加藤清次 阿部 進 亀田 純 金 幸
隆 近藤玲介 境 智洋 酒井利彰 新
村太郎 田村明弘 永井 潤 吉田麻美
渡部路子 佐野貴司 土 宏之 渡邊正
人 坂口 秀 長谷川智史 有道敏雄

2) 院生割引（95）：岩谷北斗 澤田大毅
岡本泰子 シャルコフスキ アネストリア
青柳大介 池田昌之 石原幸子 市来孝志
岩村里美 江川佳苗 遠藤俊祐 大友隆史
大場裕史 大森康孝 大谷麻美 梶 海彦
勝根 郷 勝部重矢 加藤暁之 加藤史恵
上條裕久 亀 聡実 北嶋亜以子 國光陽
子 熊田祐子 小林今日子 駒田希充 齋
藤華苗 阪上雅之 佐々木聡子 佐々木潤
佐藤伸明 椎根 大 志村 崇 下郡裕之
菅沼香織 鈴木将治 鈴木隼人 清家一馬
高島紫野 高梨幸志郎 竹田知史 館 良
和 谷口圭輔 塚田 豊 鶴岡 昂 寺下

陽三 東郷徹宏 戸邊勇人 鳥口能誠 中澤理久 中島由記子 中村圭助 南部拓未 二宮知美 野々垣進 林 圭一 原 勝宏 伴野卓磨 福田佳代 古橋恭子 真末裕志 水落裕之 溝口秀治 山口真喜子 山崎亮 山田周作 山本修治 吉内佑佳 吉田昌幸 ラコトナンドーラサナ タラータカム 稲本雄介 尾崎かおり 馬淵しの 長谷川裕樹 島野恭史 酒井亮太 小城志保子 永田 潤 星多恵子 馬場奈緒子 佐藤和也 井上朋香 ポース サンカー 市川 博 ココニヤンギ ウィタネネ ジョセフ 草野有紀 橋本瑛久 千葉恵美 村上龍太郎 奥村知世 山下翔太 山口隆久 稲垣貴之

3) 準会員 (11): 高仁 環 曾野部敬子 加川泰久 西垣貴史 忽滑谷優里 山崎雄三 湯川達也 横暮早季 小安浩理 森谷匡 及川敦美

4) 退会者16名 タウン タイ 白井亮久 梅原綾乃 田中秀典 節田佑介 工藤高一 鈴木正義 塩野正道 佐治一郎 磯見 博 勝木厚成 狩俣 薫 塩見良三 佐藤 充 田島俊彦 三宅輝海

②逝去 (2): 名誉会員; 大久保雅弘 (6月10日), 正会員 立花 卓 (2006年12月11日)

③会員の動静 (2007年8月31日現在)

賛助会員 名誉会員 正会員(内 院生割引) 学生会員 合計					
2007.8.31	34	74	4426(295)	39	4573
2007.3.31	34	74	4294(287)	45	4447
前回比	0	0	132(8)	-6	+126
昨年比					-38

会計関係 (会計委員長-佐々木和彦, 担当理事-向山)

・07年度支部補助費を支出
北海道支部 73,900円, 東北支部 78,900円, 関東支部 171,100円, 中部支部 109,000円, 近畿支部 94,400円, 四国支部 71,900円, 西日本支部 100,800円

2) 広報委員会 (担当理事-倉本)

・メールマガジン「geo-Flash」創刊, 7月3日第1号配信。毎月第一, 三週の月曜日の予定で, 9/8までに8号を刊行した。
・HPのリニューアルに関して, 9/9から公開する予定。詳細については坂口小委員会委員長より説明があった。
・札幌大会のプレスリリースを実施した。方法・手順等のマニュアルの整備が必要。

インターネット運営小委員会 (委員長 坂口有人, 担当理事 倉本)

・1年間かけてHPのリニューアルを実行した。

8月28日 (火): 仮HPを理事, ならびに評議

員に公開

9月7日 (金) までにコメントを募る

9月8日 (土): 評議委員会, 理事会で新HP公開を報告→坂口委員長出席

9月9日 (日): 新HP公開

・今後も情報発信のプラットフォームとして整備していく予定。
インターネット運営小委員会の奮闘に拍手で敬意を表した。

2 学術研究部会

1) 行事委員会 (担当理事-齋藤, 代理渡部)

・札幌大会の状況説明があった。当初, 講演要旨の登録に際して共著者の会員番号が必要となっており, 登録開始後に不要とした。今後の検討課題。
・地質情報展は, 北海道大学内の他, 札幌駅西口コンコースにも展示した。
・GeoWeekとして, 共通の参加券が発行された。

2) 国際交流委員会 (担当理事-公文)

・タイ地質学会と交流の覚書を交換した。
・韓国地質学会との学術交流協定を10/25に交わす予定。具体的な行動計画を議論している。
・交流支援に関する学会の予算措置は困難な状況にあるが, 行動計画を立てて大型予算や2国間ファンド等を積極的に申請するなどの活動を検討したい。

3 編集出版部会

1) 地質学雑誌編集委員会 (担当理事, 編集委員長-狩野, 副委員長-久田, 宮下: 企画部会担当)

・今月の編集状況 (9月4日現在)。
113-8: 論説4・口絵1 (63ページ, 8/21校了・8/27発送済み)
113-9: 論説4・短報1・口絵1 (約60ページ・校正中)
・2007年度投稿論文総数57編 [論説38 (和文37+欧文1), 総説7 (和文7), 短報10 (和文9 欧文1), ノート2 (和文2)] 口絵7 (和文5 欧文2)) ※うち41件が電子投稿
投稿数昨年比 -17 査読中 54編 受理済み 6編

・地学教育関連の特集号投稿・査読中。
・一部任期切れの委員 (企画部会を含む) について交代および継続を確認中。
・地質学雑誌の新カテゴリ「報告」を立ち上げた。

意義のあるデータの公表を目的として, 修士論文等を地質学会が一定の品質保証を行う形で地質学雑誌に掲載する「報告 (Report): 最大6p.」を導入することとし, これに係る必要な諸規定・規約等を変更した (地質学雑誌6月号掲載)。

2) 企画出版委員会 (担当理事-藤本)

・国立公園地質リーフレット「箱根火山

リーフレット」, 子供向けおよび一般向けとも完成。子供向けは神奈川県博他5施設で, 火山地質図は神奈川県博で委託販売を開始した。引き続き「屋久島」を準備中。

・「新しい地学のすすめ」(地学読本刊行委員会原田憲一委員長) 11月, 出版社から刊行予定
・「国際地層名ガイド」改訂版を2008.3の発行予定で準備中。

3) Island Arc連絡調整委員会 (委員長 会田信行) 特になし

4) Island Arc編集委員会 (編集事務局長 竹内 圭史・角替敏昭, 担当理事 WALLIS)

16-4号に来年の600ページから30p (または23p) を前借りする必要が生じている。W-B社と相談する。2008.1より論文の長さの制限を20pから15pとする。

・17-1予定の特集 (6編) が厳しくなってきた。幸い手持ち一般原稿があるので, 特集不調の場合は充当する。

・2008.1より編集長を前川氏, 井龍氏に交代する予定。

・その他の報告

4 普及教育事業部会 (担当理事-矢島)

1) 地学教育委員会 (委員長 阿部国広)

①地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」(委員 阿部国広)

・地学オリンピック小委員会委員として, 香東卓郎会員を推薦。2007.11の韓国大会に調査団を派遣する。JSTに予算申請するなど, 大会に向けての準備を行っている。
・教育課程小委員会報告。指導要領の改訂に際して, 地学教育の振興と普及のため, 学術会議等との懇談を行い, 教育内容の提言を行っていく予定。

2) 生涯教育委員会 (委員長-柴 正博, 担当理事-藤本)

・札幌大会で, シンポジウム「地質学の社会教育・普及へ研究者に求められるもの」を開催。
また, 夜間小集会「博物館とジオパークと普及」を開催する。
・地質百選の解説および博物館情報について, メーリングリストを活用して協力。

3) 地質基準委員会 (委員長 新妻信明)

・活動報告。土木地質に関する用語を加える。

5 その他 (理事会関係の委員会等の報告)

1) 支部長連絡会議 (担当理事-伊藤)

・6月23日支部長会議開催

1) IYPE (国際惑星地球年) および Geo-Park推進, 地質の日制定への取り組みと協力要請等について, 2) 今後の年会開催地支部ローテーションと他学会との合同開催等について, 3) 国立公園

リーフレット作成等の支部の協力などについて話し合った。

- 2) 地質災害委員会 (担当理事-天野)
 - ・2007年中越沖地震に際し、3グループ (信州大、金沢大、山口大) が地質学会調査団として現地調査をおこなった。
- 3) ジオパーク設立推進委員会 (委員長-佃 栄吉)
 - ・最近の活動について報告。2007.9現在8つの地域がジオパークへの登録希望をしている。連絡協議会を設立する予定。
 - ・「ジオパークとジオツーリズム」のピラを作成した。
 - ・関連して、5月10日を「地質の日」に指定して全国の博物館などと協力して取り組みよう。

II 各種委員会報告 (理事会・評議員会関係)

1. 各賞選考委員会 (委員長 安藤寿男)
 - ・各賞選考過程に関する審議中間報告
2. 名誉会員推薦委員会 (担当理事-委員長 伊藤副会長)
 - ・広く推薦を要請する。
3. 女性地球科学者の未来を考える委員会 (委員長-堀 利栄)
 - ・委員会名称の変更を検討中。
4. 法人化実行委員会 (委員長-齊藤靖二)
 - ・2007.8に文科省を訪問し現状の説明をうけた。新法が出来ている現状では、旧法での法人化を進めることはできないとのことであった。2008.12に向けて法人化の準備を進める。
 - ・旧法での法人化に向けて準備した基金の取り扱いについて、今後検討する。
5. 法務委員会 (委員長・担当理事-上砂)
 - ・新HPのシステム作成業者 (ST-LIVENET) との、「事業参加を推進するための秘密保持契約書」の文面案検討。
6. 地質学史アーカイブス委員会 (委員会 田信行)
 - ・活動報告

III 選挙管理委員会 (委員長-加藤 潔)

- ・互選により、加藤潔会員を委員長に選出した。
- ・2008年度の会長、副会長、監事、代議員選挙、理事選挙、評議員選挙を実施のため、News 8月号に告示の予告を掲載した。
- ・8月30日に委員会を開催。News 9月号に掲載する選挙告示について検討

IV その他

1. 学術会議関係 (木村会長)
 - ・G8の開催に向けて地球温暖化に関する提言が検討されている。
 - ・課題別委員会での連合セッションの設置。
 - ・地球科学系の教育内容アンケートを集約した。
 - ・全国のPDに対してアンケートを行い、集約結果を学術会議の提言として検討する予定。
2. IUGSおよびIYPE関係 (担当理事 佃副会長)
 - ・学部学生6名程度を選定して、研究活動の紹介をパリで行う予定。

V 理事会審議事項 (主なもの) 報告

1. 札幌大会について、関連行事等について企画、検討。
 - ・札幌駅西口コンコースでの展示、就職支援プログラム、小さなアースサイエティスト集い、地質情報展、同窓会などの学会行事および関連行事、他団体の行事も含めたものを「Geo-week」として実施することなど。また、札幌大会見学旅行案内者および夕張市教育委員会の要請を受けて、9月12日に年会関連行事として夕張市において会長講演を行うこととした。
2. HPのリニューアル、メルマガの発信などWebサイトの体制について検討。
3. 各賞選考過程について、選考委員会からの審議の中間報告をうけて理事会としての具体案を検討することとした。
4. 地質学雑誌問題にたいする対策等について検討・実施。
5. アイランドアーク編集長の交代 (候補者選考は編集長会) および論文制限ページの変更を認めた (論文20→15ページに、レビュー無制限→20ページ)
6. 選挙管理委員の選出: 有井聡美, 加藤潔, 駒井希充, 佐脇貴幸, 西村瑞恵 (以上5名)
7. 大学評価・学位授与機構から、国立大学教育研究評価委員会専門委員候補者の推薦達成状況評価委員 4名: 井内美郎, 北里 洋, 大槻憲四郎, 新妻信明
研究業績委員 5名: 石渡 明, 磯崎行雄, 板谷徹丸, 永広昌之, 巽 好幸
8. 文部科学省若手科学者賞の候補者として、青矢睦月会員を推薦。
9. 50年顕彰会員の追加承認: これまでのリストから漏れていた方, 秋山雅彦名誉会員 (55年) と山形 理会員 (50年) を追加承認し、9月に顕彰することとした。
10. 緊急パネルディスカッション「我が国の防災立地に対する地球科学からの提言」を構造地質研究部会とともに実施することを決めた。

11. 沖縄奨励賞に対し、井龍康文会員から推薦の要請があり、検討し了承した。
12. 斉藤法人化実行委員長の報告をうけて、報告とともに今後のことを評議員会にて検討することとした。

評議事項

1. 各賞選考について (日本地質学会各賞規定の改正)
 - ・優秀講演賞について、実質的な評価の対象がポスターの内容であることから、優秀ポスター賞に名称を変更する提案がなされた。変更について異議はなく、名称変更を承認した。
 - ・学会賞、国際賞、柵山賞、小藤賞について例年推薦が少ないことから、従来の個人からの推薦に加えて、推薦委員会を設置して候補者を推薦することについて、また現在の1月末の推薦締切ではたとえ国際賞では受賞者招聘費用の予算計上の問題など、実務的に時間が不足していることから、試行として12月25日を締切として検討してはどうかという点など理事会提案について評議した。推薦委員会の設置や位置づけ等については、理事会・評議員会で早急に検討する必要がある。これらについては日本地質学会各賞規定の改正が必要となるが、本日は時間が不足のため、理事会からの改正案提示を待って、評議員会では継続審議とした。9月末を目途としてメールシステムを通じての持ち回り審議などで早急に結論を出すこととした。
2. 秋田大会について
 - ・次回、秋田大会は、2008.9.20~9.22の予定。東北支部で分担して運営する。日本鉱物科学会と同時日程で開催する。今後、広報・セッションなど共同してできる内容を検討する。
3. 情報システムの今後
 - ・GeoFlashを継続的に発行しHPでのアーカイブ資料とする。
 - ・HPからの入退会のフォームの整備、会員サービス向上に向けた整備や英語版の作成等を検討する。
4. その他
 - ・年会行事であるシンポジウムのありかたについて、時間制限などの問題でその役割が阻害されていないかという、提起が評議員からあった。この点について、発表・討議の時間の確保など大会の運営の中で工夫をして、よりよいシンポジウムになるよう行事委員会で検討するよう要請した。
 - ・大会の支部持ち回り制度に対する意見が紹介された。